【事業名】富士山北部生物多様性保全推進事業
（山梨県鳴沢村・富士河口湖町）　【団体名】富士山北部生物多様性保全協議会

平成30年度　生物多様性保全推進支援事業
実績報告書別紙９－６

事業の背景・目的

全国的に里山草原環境が減少し、多くの草原性動植物が絶滅の危機に瀕している。生物多様性ホット・スポット日本を代表する富士山も例外ではなく、多くの絶滅危惧動植物が残された半自然草原に辛うじて生き残っている状況である。そこで、富士山北部の人工林伐採地と残された半自然草原で、草原性絶滅危惧動植物種をはじめとした生物相とその変化を調査することで、人工林の伐採跡地が絶滅危惧動植物の新たな生息地になり、その後の林業作業が富士山の生物多様性保全の役割を果たしているのかを検証することを目的として事業を実施した。

事業の内容

事業①　絶滅危惧動植物種の現状把握と課題抽出

伐採跡地２箇所に定点調査地１及び２と半自然草原である野尻草原・本栖高原に調査地を設定し、絶滅危惧１３種の植物・チョウ類をはじめとした植生・チョウ類相・鳥類相・ほ乳類相の調査及び気象・土壌水分調査を行い、現状把握と課題抽出を行った。

事業②　林業作業との協働による絶滅危惧動植物種保全

定点調査地の伐採跡地での下草刈り作業や周辺の人工林における除伐（蔓切り）作業をボランティアとともに行い、絶滅危惧動植物の新たな生息地形成を促し、その保全に繋げる作業を行った。

得られた成果と今後の展望

事業①　絶滅危惧動植物種の現状把握と課題抽出

定点調査地１及び２の伐採跡地で、ベニバナヤマシャクヤク＜写真１＞・サンショウバラ（絶滅危惧Ⅱ類）・ヤマシャクヤク（準絶滅危惧）とヒメシジミ・ギンイチモンジセセリ（準絶滅危惧）を確認。半自然草原本栖高原・野尻草原で、フナバラソウ・コウリンカ・ミズチドリ等の絶滅危惧植物、ホシチャバネセセリ＜写真２＞・クロシジミ・コウゲンヒョウモン・ヒメシロチョウなどの絶滅危惧チョウ類１０種を確認した。今後は外部からの補助金を頂きながら調査を継続し、その結果に基づいて林業作業と絶滅危惧草原性動植物との共存を図りたい。

1

2

事業②　林業作業との協働による絶滅危惧動植物種保全

平成２８年度及び平成３０年度に植林された伐採跡地（定点調査地１）での下草刈り作業＜写真３＞と、植林地での蔓切り・除伐（植林木以外の伐採；写真４）をアースウォッチ・ジャパンの協力を得て実施し、残りは業者に委託して完了した。

今後も業者による林業作業が行われるので、外部からの補助金を頂きながら絶滅危惧種をはじめとした生物相調査を継続することで、下草刈り等の林業作業や防鹿柵が生物多様性保全に果たす役割を検証したい。

3

4